氏　　名	渡邊　正章
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第４８８号
学位授与年月日	平成３０年３月２３日
審査委員	主査　教授　　神田　秀幸
	副査　教授　　森田　栄伸
	副査　臨床教授　近藤　誠二

論文審査の結果の要旨

胃食道逆流症（Gastroesophageal Reflux Disease: GERD）の食道外症状のひとつに歯牙酸蝕症（Dental Erosion: DE）がある。口腔には硬組織と軟組織とがあり，GERD と，DEを主とする硬組織疾患との関連は報告されているが，軟組織疾患との関連は見当たらない。また，これまでGERD患者の唾液分泌機能と嚥下機能の低下を明らかにしてきた。そこで，本研究は，GERDと，唾液分泌機能，嚥下機能，さらに歯周疾患や口腔粘膜炎（Oral Soft Tissue Disorders: OSTDs）を主とする口腔の軟組織疾患との関連を明らかにする目的とした。

対象は，本研究への同意が得られたGERD群105名（平均年齢：66.4歳），老年コントロール群25名（平均年齢68.3歳），若年コントロール群25名（平均年齢28.7歳）とした。唾液分泌量測定，嚥下機能検査，歯周疾患ならびに口腔粘膜炎の評価を行った。またGERD症状と同時に起こるとされるBruxismの有無を問診調査した。さらに，GERDの重症度別に各項目の比較検討を行った。統計学的解析は2群間の検討をWilcoxon 順位和検定を，3群間の検討をKruskal-Wallis 検定を用いて行った。

結果として，GERD群は，唾液分泌機能と嚥下機能が有意に低下していた。 GERD群は歯周疾患の罹患が有意に多く，またGERD群にのみ口腔粘膜炎が認められた。Bruxismについては，GERD群において有意に多かった。GERDの重症度別に各項目との関連はみられなかった。

本研究より，口腔の軟組織疾患の発症はDEと同様に，GERDとの関連性が示唆された。